連載11

油彩
（テンペラ併用）

形像のある静物を描く①

三浦明範の静物画講座

117
影像のある静物

前にも書いたように、間は重力の支配を基本的な判断基準としています。これからの時間の流れは、音楽を聴くことに求められる。

その先に並ぶ動く方向を、また、音楽の流れに沿う動きを感じさせます。構図2、3。

また、その真の方向から動

きが決定したまま、前後の動きの方向が決定したまま、色

彩の効果で、前後の動きの方向が決定しました。構図4、5。

この色彩効果に

する動きは、いわゆる“空気感”です。遠くを呼ぶと、

近づき、いわゆる“空気感”です。音が動くと、

放射、円形、波巻き、三角形。

これは形、配置、色彩で

動きが決定しましたが、この見

に、良い形がしゅうべく見つ

てきますのは、この“音画外における

構図の問題を忘れない

この要因でもあるのです。

■ 制作

今回の赤い物体は、F10号のシナ

ベ、ハ、ネルに似た色を用いた

ので、ここに、有機物を強調する関

係で配置します。

① 木の木、月の月、夜の夜を

同じ方向に、木の木、木の木を

考え、最後に木を引かせると、

 tuần

② アイソレーション

③ アイゾレーション

④ アイソレーション

⑤ アイソレーション

の木の中での明暗の調子を

いていきます。つまり、黒い物体と白

色と黒の相補色が、全体のルール

で搭配しているのが、それぞれの色

に、暖色と寒色を感じさせる仕組

みです。また、赤と緑の混合から

ど、暗い色彩が ofrec

で、黒さが見えにくくなる遠近法

ができます。また、赤と緑の相補色

は、それぞれの色彩が、それぞれの

色の明るさを増やさないで、

この色彩の明るさの増やさです。

さらに、この色彩に、間の間

の色彩の明るさの増やさです。

■ 制作過程

今回は、これまでの浮き出し、見かけ上

下の色が影響を与え、はいない。

下の色が影響を与え、はいない。

下の色が影響を与え、はいない。

下の色が影響を与え、はいない。

下の色が影響を与